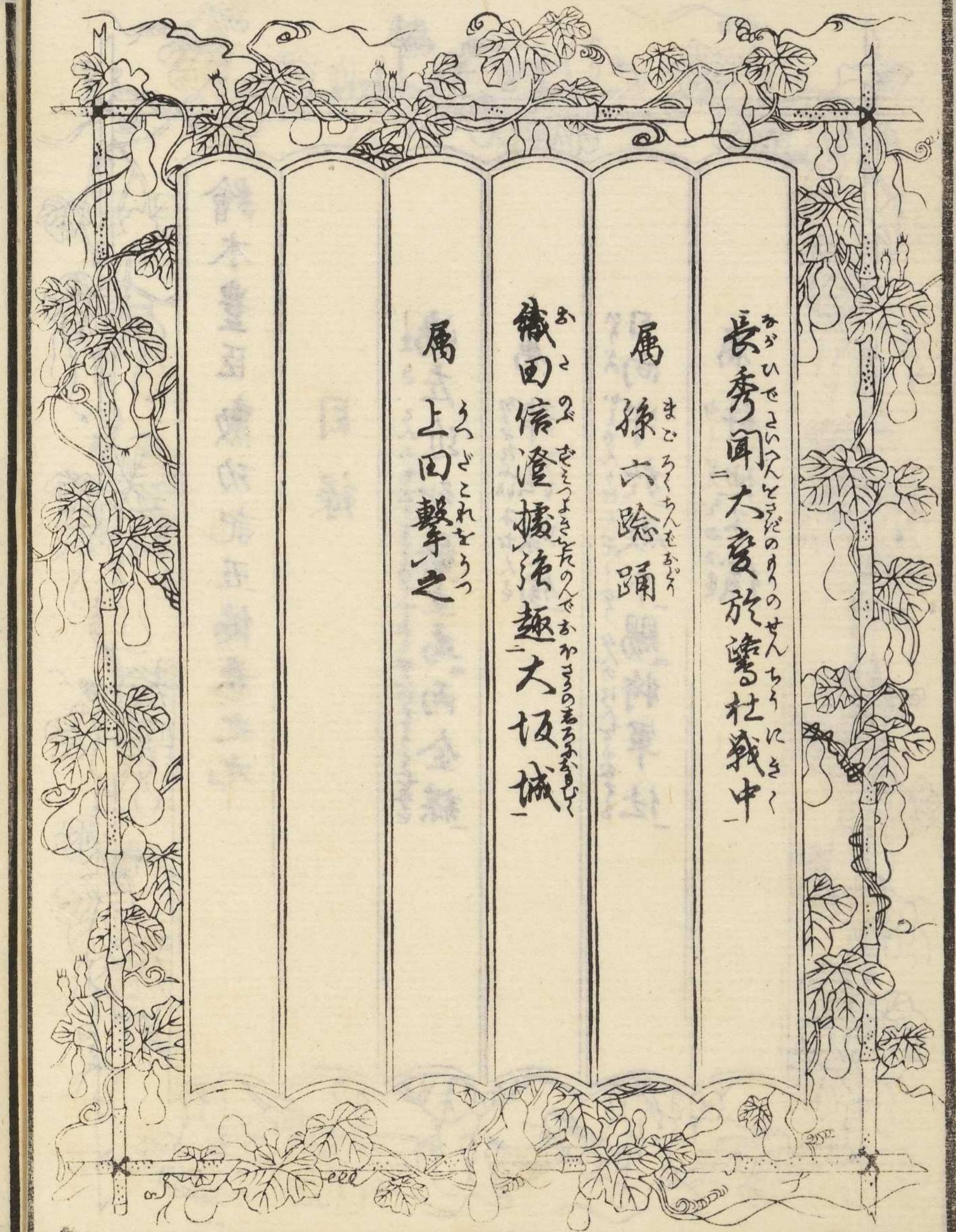


長秀聞大變於繩社戰中

屬 繩六踰踊

織田信澄據強趣大坂城

屬 上田擊之



繪本豊臣勲功記五編卷之九

江戸 八功舎 德水刪補

將近智勲主為兩全謀 屬陣法螺嶺

合簡井家譜
次云天寬廢
余利明之室
山次遷り承
五時お便ふ
若東四家
の一人年太
支差原頃
武らをも
よう三十
代をそ嘆
慶お嘆其

其家にして良臣ある。一身四肢はあるが如し。足はかくんを身残有一と
河へもざるべし。彦川和川、那山の謀主筒井順慶といふ。庶へ治理不精しか
らざれども。臣家に左近右近ある城りく。國家不恙か。りしこと。強手良臣
此徳ふあるを。然る小光秀。遠順慶を。自方にせすく。恩ひられば。歟。又大
八郎利次の才也。城使者として。猪木多く納齋せ。那山へ遣したり。升も先
秀と順慶。交情深き而縁を絶ば。過年元龜二年の十月。松永彈正。篠代
として。明智光秀に推舉ふたり。順慶これ滅亡たり。遠功を弦よ吹讚し
て。大和の園主とあらへめくる。恩義ハ明智に有ぬま。うきよりまづく光